

1 主題名 「声なきメッセージ」 2－(3) 友情・信頼

2 ねらい

- ・友だちの気持ちを考えて行動しようとする気持ちを高める。
- ・携帯電話を使うときのルールを理解する。

3 活用したICT

電子黒板, 校内LAN (動画コンテンツ)

4 活用したICTの特性

- ・資料を文章ではなく動画にすることで, 子どもの興味を引き付けるとともに, 内容を理解させやすくすることができる。(校内LAN)
- ・番組は毎年更新され, 携帯電話を使ったトラブルやいじめにつながる書き込みなど, 今日的な問題を取り上げたものもあり, 子どもたちの実態に合わせて幅広く選ぶことができる。(校内LAN)
- ・子どもたちにスライド上の気持ちのゲージに色を付けさせることにより, 気持ちを考えるとともに, いろいろな友達の考えと自分の考えを比較し, 考えを広げることができる。(電子黒板)

5 実践の様子

動画は, 友達だった女の子二人がささいなことから仲が悪くなり, 悪口メールを差出人が分からない状態で送ってしまうというものである。読解が苦手な子どもも集中して見ることができ, 中には「送っちゃだめ。」というつぶやきをしている子どももいた。(資料①)

動画を視聴後, まず携帯電話のルールについて考えさせた。「お話の中に, 携帯電話を使うときにやってはいけないことが2つありました。どんなことでしょうか。」と発問すると, 全員が「悪口メールを送ること」は分かり, さらに約半数は「勝手にメールアドレスを教えること」も分かっていた。

次に, あらすじの確認を行った。自作のプレゼンテーションを使うことで, スムーズにあらすじを確認することができた。また, このときに主人公二人の「怒り」と「やっちゃんいけない」という2つの気持ちを, ゲージの長さで表す活動を行った。ここでは, 電子黒板の書き込み機能を使い, 何人かの子どもにあらすじのスライド上に作っておいた気持ちのゲージに色を付けさせた。(資料②)

子どもたちは, 主人公は二人とも「やっちゃんいけない」という気持ちもあったことが理解できており, 「やっちゃんいけないことは分かっているけど, 怒りが強いから仕返しをしてしまう」ことを確認することができた。

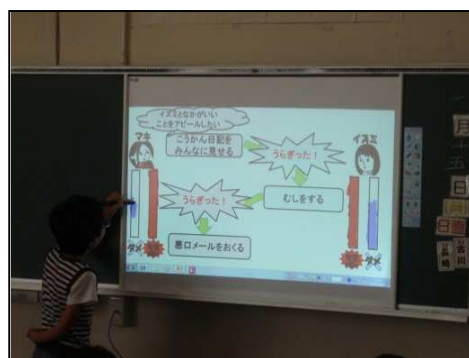
最後に, この二人はお互いにどんなことを相手に言えばよいかを考えさせた。大半の子どもは, まず自分の悪かったところを謝るという内容を答えることができた。

6 成果と課題

- 本学級は携帯電話の所持率が高く, 携帯電話を扱った動画を見せることで, 子どもの興味を引き付け, 携帯電話のルールについて考えさせることができた。
- 動画を見せることで, 文章の読解が苦手な子どもにも資料の内容を理解させることができた。
- 電子黒板を使って, スライド上の気持ちのゲージに色を付けさせることで, どんな気持ちが原因で仕返しをしてしまうのかに気付かせることができた。
- 校内LANを使って動画を視聴する場合, 通信状況によって動画が止まることもある。最悪の場合, 視聴が続けられなくなることも考えられるので, その場合に備えて, あらすじに画像を付けくわえたプリントを用意するなどの対処法を考えておく必要がある。



資料① 動画を視聴する様子



資料② ゲージに色を付ける様子